

第1回 エリアブランディング構想策定事業 研究会 議事録

1. 開催日時

令和5年（2023年）11月21日（火）10時00分から11時45分

2. 開催場所

小田原市役所 7階大会議室

3. 出席者等

<出席者>

高橋 征人（小田原市漁業協同組合/組合長）
米山 典行（株式会社小田原魚市場/社長）
古川 孝昭（小田原市公設水産地方卸売市場買受人組合/組合長）
高橋 収（漁港の駅 TOTO CO 小田原/駅長）
鈴木 志卓（早川みなと商店会/会長）
田川 修三（小田原地魚大作戦協議会/会長）
市川 将史（小田原地魚大作戦協議会/副会長）
脇 昌丈（木地挽自治会/会長）
富樫 栄広（みなと自治会/副会長）
青木 勝（西組自治会/会長）
松本 孝俊（中組自治会/自治会員）
加藤 始（東組自治会/会長）
鈴木 悌介（小田原箱根商工会議所/会頭）
外郎 藤右衛門（小田原市観光協会/会長）
堀池 衡太郎（NPO 法人小田原ガイド協会/会長）
山根 寛（東日本旅客鉄道株式会社 企画総務部経営戦略ユニット/マネージャー）
黒川 真（東日本旅客鉄道株式会社 小田原・伊豆統括センター/副所長）
加藤 健太（神奈川県西部漁港事務所/副技幹）※代理出席
片山 俊之（県西地域県政総合センター 地域農政推進課/主査）※代理出席
堀江 克幸（県西土木事務所 小田原土木センター 道路維持課/副技幹）※代理出席
和田 芳廣（経済部（観光課）/副部長）
内田 充俊（経済部水産海浜課/課長）
木澤 克紀（都市部まちづくり交通課/副課長）※代理出席
阿部 祐之（企画部/副部長）

【事務局】

府川 一彦（企画部未来創造・若者課/課長）
田邊 周一（企画部未来創造・若者課/副課長）
今野 真吾（企画部未来創造・若者課 未来創造係/係長）

石渡陽介（企画部未来創造・若者課 未来創造係/主査）

田村将洋（企画部未来創造・若者課 未来創造係/主事）

【庁内検討会議メンバー】

見坊俊明（経済部水産海浜課 水産振興係/主任）

菊川雅史（都市部都市計画課/副課長）

桐村隆広（都市部都市計画課/主事）

土谷海斗（都市部まちづくり交通課/主事）

葛西隼太郎（都市部まちづくり交通課/主事補）

＜欠席者＞

小松伸之（早川商工振興会/会長）

川口篤郎（かながわ西湘農業協同組合 総務部総務課/課長）

加藤秀一（神奈川県西部漁港事務所/所長）

柳下 勉（県西地域県政総合センター 地域農政推進課/課長）

荒井千里（県西土木事務所 小田原土木センター 道路維持課/課長）

金子明弘（都市部（まちづくり交通課）/副部長）

石塚正章（都市部都市計画課 市街地整備担当/課長）

斎藤武志（企画部/部長）

内山俊貴（経済部観光課/主事）

＜受託者＞

大野 整（株式会社都市環境研究所）

関 宏光（株式会社都市環境研究所）

西村卓也（株式会社都市環境研究所）

久保凜一郎（株式会社都市環境研究所）

4. 資料

会議次第

第1回エリアブランディング構想策定事業研究会出席者名簿

資料1 エリアブランディング構想の基本事項について

資料2 美食のまちづくりによる地域経済の好循環に向けて

資料3 エリアブランディング構想の作成イメージについて

資料4 今後のスケジュールについて

5. 次第

1 あいさつ

2 エリアブランディング構想の基本事項について

(1) エリアブランディング構想策定事業の概要

(2) 構想策定における検討フローについて

(3) 対象エリア及び周辺との連携について

(4) 構想年次の考え方について

3 関連する取り組みについて

(1) 美食のまち小田原の取り組みについて

(2) 水産市場の再整備について

4 エリアブランディング構想の作成イメージについて

(1) エリアブランディング構想の骨格について

(2) 現況と課題について

(3) 実現したいまちの将来イメージについて

(4) 将来都市像の設定について

5 今後のスケジュールについて

第2回研究会（予定） 令和6年3月26日（火）午前10時

6. 議題

(1) エリアブランディング構想の基本事項について（次第2）

事務局 資料1「エリアブランディング構想の基本事項について」に基づき
説明

(2) 関連する取り組みについて（次第3）

1) 美食のまち小田原の取り組みについて

経済部観光課 資料2「美食のまちづくりによる地域経済の好循環に向けて」に基づ
(和田) き説明

2) 水産市場の再整備について

経済部水産海 市場の再整備について説明（口頭）
浜課（内田）

（次第2及び次第3 質疑）

小田原魚市場 全体構想は長期間となっているが、どの点を踏まえて判断すれば
(米山) よいか疑問である。石川県では整備に何年も時間がかかるという一
方で、流通事業者の立場では素早い対応が必要という意見もあった
ことから、迅速に進めてほしい。

事務局 全体構想は概ね15年後の将来像を描くものであり、水産市場の再
整備、美食のまちなどの取組を見据え、今後の将来都市像を設定して
いきたい。

取組については、15年後に事業の完成を目指すものではなく、各
団体が連携しながら、短期で進められるものは随時取り組んでいく
考えである。

買受人組合
(古川) 15 年後の将来を考えるのは難しいが、エリアブランディング構想を取りまとめることと、水産関係者の思いなど、どう位置付けていくのか。

買受人組合としては、水産市場の再整備にどの程度コストをかけて取り組むのか懸念している。

水産市場の再整備に伴うコストを利用料として支払うのは買受人組合であり、過去には、豊洲市場の衛生管理型の設備が完備されたものを参考にしていたが、相当な費用がかかるため、事例視察などを通して、現在はコストをかけずに整備していくべきと考えている。

市場の使用料が上がると買受人組合としては厳しい状況になるため、シンプルな市場再整備を望む一方で、市場の場所を考える論点もある。

水産市場の位置をどこに配置すべきか検討の余地もあり、皆さんで議論していきたい。

事務局 構想は概ね 15 年後の 2040 年を目標に設定し、全体構想ではある程度現実的なものを描いていき、また、次世代に繋げていきたい関係者の思いや新たな創造などの長期的な内容については、未来創造図として、それぞれ描いてきたいと考えている。

経済部水産海
浜課 (内田) 水産市場の再整備の検討を始めた当初は、完全閉鎖型の高度衛生管理型市場が主流であったが、先日水産 3 団体の若手と先進事例の視察で訪れた愛媛県の八幡浜市水産物地方卸売市場と宇和島市水産物荷さばき施設では、豊洲市場のような高度衛生管理型ではなく、体育館のような単純な構造や防潮ネットなどの簡易な施設整備であり、各地で仕様が見直しされている状況である。

本市としても低コストで整備できるよう、来年度以降、水産関係者と議論しながら検討していきたい。

小田原市漁協
(高橋) 小田原の魚の一番の利点は、船から直接魚を陸揚げできることで、鮮度を保つことでブランド化に繋がっている。また、各漁場が水産市場から近く、船から荷揚げする場合、一番遠くても二宮漁場や真鶴・岩漁場であり、約 30 分程度で陸揚げすることができる。

他の漁港では、陸揚げするまでに 2 時間以上かかる場所もあり、漁場が近いことは小田原にとってのメリットである。これを可能にするためには船を接岸する泊地が必要であり、現在の規模は最低限必要となるため、生産者の立場からは現在地での再整備を望んでいる。

また、近年では海業という考え方を活性化において重要となって

いるが、本港周辺と TOTOCO 来訪者を足すと年間 100 万人を超えており、将来的にさらに来訪者を増やしていくためには海側から人を呼び込むことが大事であると個人的には考えている。

そのためには、新港を活用してクルーズ船を運航できると良いのではないか。クルーズ船を運営している会社やマリーナを保有する会社と話す機会があるが、小田原に参入したいという業者は多い。小田原漁港は県の整備計画の中で事業を進めてきており、水産庁の計画と異なる用途での活用は許可が必要であったが、昨今の法改正による規制緩和に伴い、海業としてプレジャーボートの利用が可能となったため、このような視点を全体構想の中で考えていければよいと考える。

商工会議所
(鈴木)

私は漁港、漁業関係者ではない中、エリアブランディング構想の枠組みを超えるかもしれないが、せっかくの機会なので意見したい。

早川エリアの価値を高めることを考えた際には、海を生かしてどうまちづくりを行っていくかが大切な視点であり、海を眺めるだけではなく、海側から陸を眺めるような、海からのアクセスが重要と考える。

まず、資料 1 にある 8 つの拠点の機能配置について、抜本的に見直しをした方がよいと考える。

現在は、漁港機能と市場機能、商業機能が混在している状態にあるため、流通に携わる事業者と一般消費者を分けていく必要があるだろう。ヨーロッパではこれらの機能が混在している地域もあり、漁港と市場については現在地が良いかもしれないが、エリア全体をみた中でもう一度議論してもらいたい。

次に、海からのアクセスについて、早川地区には世界中から人を呼び込むポテンシャルがあると感じている。

県では「かながわシープロジェクト」を通じて相模湾を生かしたまちづくりを進めており、国や県との連携や政策との整合性も必要と考える。例えば、観光拠点としてはマリーナ機能が考えられ、船を所有している人は高所得者が多く、陸路に加えて、早川の海を通じて人の流入を考えていけると良く、防災の視点からも、全体計画を見直していけるとよいと考える。

次に、教育の視点として、海から小田原の地形や自然を見ることで子どもたちの感性を高めたいと考えており、自分の地域やまちづくりへの興味を持ってもらう機会にしたい。例えば、市内の小中学生は小田原沿岸のクルーズ船に乗船し、海からふるさとを眺める体験もよいと思う。

事務局 2040 年を目標にした構想に関して、抜本的な見直しという話があったが、施設管理者や居住者もいることから、今後、様々な関係者ともヒアリングを行いながら検討していきたい。

(3) エリアブランディング構想の作成イメージについて（次第 4）

受託者 資料 3 「エリアブランディング構想の作成イメージについて」に基づき説明

(4) 今後のスケジュールについて（次第 5）

事務局 資料 4 「今後のスケジュールについて」に基づき説明

（次第 4 及び次第 5 質疑）

東組自治会 構想策定に向けては、内容を理解し、同じ歩みで進めることが大切であると思う。次第 2 の構想の基本事項で説明がされた、地域特性を生かしたまちづくりを進めるということで認識していたが、先ほど漁業関係者から意見で述べられた、海を活かしたまちづくりや漁業関係の魅力を再確認したところである。

（加藤）

地域の課題意識としては、JR 早川駅では土日・祝日に降車する人が多く、観光客で溢れている状況であるが、利用客の中には高齢者や体が不自由な人もおり、外国人やキャリーケースを持っている人もいます。

駅利用者はエリア全体を回遊していると考えられるが、漁港の駅 TOTOCO 小田原がバリアフリー化されている一方、早川駅ではプラットフォームと改札の昇降手段が階段しかなく、来訪者を受け入れる意味でも将来に渡ってバリアフリー化が重要となるだろう。

これは、JR だけに言及しているものではなく、構想の目標年次である 15 年後は、現在よりも高齢化が進んでいると考えられる中で、皆様とバリアフリー化する視点を持つことは大切だろう。

また、駅は英語で「ステーション」だが、ステーションには「代表する場所」という意味も含まれている。15 年後に 8 つの拠点が急にステーションとしての役割を果たせる訳ではないが、各拠点機能が点在してしまうことを危惧している。

その中でもキーとなるステーションが必要であり、早川駅に隣接した JA の建物などは、キーステーションとなりうるだろう。

事務局 市として公共交通機関の利用促進を図りながら、課題解決に向けた方策など、今後のヒアリングを通じて整理させて頂きたい。

TOTOCO 小田原（高橋） 将来像の設定や実現したいイメージについて、水産市場の再整備が進む中で、この再整備の方向性がまちづくりに大きく関わってくると考える。

先程の高橋組合長の話のとおり、小田原漁港の強みとしては、漁場が近く、船を直付けできる岸壁があり、関東圏に近いといった特徴が挙げられる。

エリアブランディング構想の策定に向けても、水産市場再整備とまちづくりをリンクして考えていく必要があると考える。

買受人組合（古川） 今後の早川地区は空き家の増加や高齢化の進行など様々な課題を抱えるが、魅力のある地域でもあり、将来のブランディングを考える上では、特にインバウンドの誘客は重要であり、例えば、世界トップ100に入るような料理人を誘致し、羽田空港からもアクセスしやすい立地特性を活かしてブランディングしていくべきと考える。

また、西湘バイパスの横に、海を眺めながら歩ける歩道をつくれないかなど、夢のような話をしながら10年、20年、100年後も誇れる場所にしていければと思う。

地魚大作戦協議会（田川） 二次交通の具体的な今後の取組みが示されておらず、普段本港で飲食店を営んでいるが、昼食を食べて伊豆・箱根方面に向かう人が多いと感じている。

早川地区周辺には、小田原城や歴史など多様な資源があることから、来訪者にも回遊を促したいが、現状では二次交通が足りていない状況であり、例えば、トクトクなどのアクティビティとしての体験も兼ねられるような二次交通を導入できるとよいと考える。

ガイド協会（堀池） 近年では隣接する板橋地区も人気のあるエリアであり、来年の朝ドラの登場人物は、板橋の別荘を利用していたようである。小田原のイメージは、小田原城、続いて小田原漁港であり、そこに板橋地区も加えることで、トライアングルで人を誘客する考え方がある。

回遊の手段としてレンタサイクルが挙げられるが、移動は一人であり、トクトクは複数人を乗せることができる良いアイデアであると感じた。ガイド協会でも回遊バスの運行をサポートしており、30名程度を乗せることができる。

先程、加藤自治会長が仰っていた JR 早川駅の乗降客に関しては、ガイド協会が駅前でガイドを行っている土日・祝日だけでも年間約9千人が来訪しており、早川駅周辺にはハブ的な機能や施設が必要であると考えます。

観光協会
(外郎)

構想策定にあたっては、大きなシンボルを掲げ進めていく必要があると考える。

観光の面から考えた際には、胃袋を刺激することや乗り物には集客力があると言われており、海からの来訪者を誘致することや、こうした来訪者が早川に入ってからどのような行動をするかも重要である。例えば、かまぼこ通りから、西海子小路を経由して早川までLRTを整備したり、一夜城までロープウェイを引くなどの案も考えられ、乗り物を活用してインバウンドを呼び込む方法もよいと思う。

来訪者の伊豆・箱根方面への通過を食い止め、いかに小田原市内での回遊を促すかの工夫を考えられるとよいと思う。

JR 東日本
(黒川)

小田原市が取り組んでいる美食のまちづくりに類似した事例として、スペインで有名なまちがあり、このまちでは、一次産業と飲食店が連携し、新鮮な食材をプロの料理人が提供する店舗が点在することで、まちとしてのプロモーションが上手くできている。

先程も話題に出ていたが、漁場が近く、来訪者にとっても駅から近いという特徴は非常に魅力的であり、こうした利点を生かして食材を新鮮なまま提供できるということをPRしながらブランディングできると良い。

また、先程のスペインのまちでは、美食倶楽部という取組があり、調理した食材を他の拠点に持っていくなど行っており、このようなブランディングの取組を通じ、地域の魅力を再認識することで、地域に携わる人のプライドを高めていくことに繋がっていくと考える。

地魚大作戦協
議会（市川）

二次交通の関係では、小田原城と早川駅が近いということがどれ程認知されているのか気になるが、こうした課題はすぐにできる施策で改善していけると考える。

また、先程古川組合長より話があった西湘バイパスの横を歩けるようにするというアイデアは面白く、個人的には橋を透明にすることで話題性をつくることもよいと思う。

その際には、建設費の回収ができるように通行料を設定するなど、継続的な仕組みを検討していき、人が集まる場所ができれば、産業の活性化にも繋がると考える

地魚大作戦協
議会（田川）

水産市場の建替えについて、現在観光客に向けて野積み場を駐車場として開放しているが、県が管理する他の場所では駐車場を有料化して運営している。再整備にあたっては、駐車場の収益を市場の運営に回すなどの工夫が必要だと考える。

また、観光客が歩く見学スペースに水族館のように活魚が見える

場所をつくれると良いと思う。

経済部水産海 令和 6 年度から水産市場の再整備に関する基本構想づくりを考え
浜課（内田） ている。駐車場の有料化や地域振興としての見学や飲食店など、低コ
ストで整備しつつも機能性を有した市場として再整備を考えていき
たい。

以上